

1. トウガン実褐斑病の化学的・物理的防除法（技術）			
[要約]			
トウガン実褐斑病の化学的防除にはリゾレックス粉剤が有効である。また、果実と土壌との接触面を不織布や敷きわらで物理的に遮断すると本病の発病を抑制できる。			
研究室名	病虫研究室	連絡先	086-955-0543

[背景・ねらい]

岡山県で発生したトウガン実褐斑病は果実表面にかさぶた状の病斑が形成される病害で、有効な防除方法がなく、現場で問題となっている。そこで、本病害に対するリゾレックス粉剤及び土壌被覆資材の防除効果を検討する。

[成果の概要・特徴]

1. トウガン実褐斑病に対して、リゾレックス粉剤の土壌表面散布(30kg/10a)は高い防除効果が認められた(表1)。
2. 敷きわらをした場合は敷きわらなしに比べて発病が少なかった。また、敷きわらの代わりに不織布(イネ育苗防根用)で土壌表面を全面に覆った場合は、全く発病が認められなかった(表2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 被覆資材は不織布(イネ育苗防根用)に限らず、土壌と果実の接触面を遮断できる資材であれば代用できる。
2. 高温多湿条件は本病の発病を助長する。
3. リゾレックス粉剤の使用時期は収穫45日前まで、使用回数は1回である。
4. つるが伸長する直前に、追肥および耕耘後の土壌表面にリゾレックス粉剤を散布し、敷きわらする。

[具体的データ]

表1 リゾレックス粉剤の防除効果

供試薬剤	散布量 ^z	地点1 (岡山市)			地点2 (瀬戸内市)		
		発病果率 (%)	発病度	防除価 ^y	発病果率 (%)	発病度	防除価 ^y
リゾレックス粉剤	30kg/10a 土壌表面散布	0.7	0.2	94.6	0.0	0.0	100
無処理	—	12.6	3.7	—	18.7	6.5	—

^z つるが伸長する土壌表面に、薬剤が植物体にかからないよう手でむらなく散布し、その後敷きわらした

^y 発病度の平均値から算出した

表2 被覆資材の防除効果 (瀬戸内市)

被覆資材	発病果率 (%)	発病度	防除価 ^z
不織布	0.0	0.0	100
敷きわら有り	8.3	2.6	70.8
敷きわら無し	25.1	8.9	—

^z 発病度の平均値から算出した

[その他]

試験研究課題・事業名：マイナー作物病害虫の発生生態の解明および防除対策
 予算区分：交付金 (病害虫防除農薬環境リスク低減技術確立事業)

研究期間：平成 16～18 年度

関連情報等：平成 16 年度試験研究主要成果「トウガンの新しい病気「実褐斑病」
 (情報)」

日本植物病理学会報 第 71 巻 第 1 号 p75 (平成 17 年)